



住民の病気を治し、 心までもほぐす

須見昌央さん(71)
徳島教会



須見医院
〒779-3213
徳島県名西郡石井町藍畑字高畑 1311
電話 088-674-0178

農業が盛んで、徳島市のベッドタウンでもある石井町に、須見昌央さんの医院はある。診察室では、白衣姿の須見さんが柔らかな表情で患者を迎え、「どうされました?」「調子はどうですか」と声をかける。患者の気持ちを考え、穏やかな語り口で丁寧に接することを心がけてきた。患者の多くは高齢者だが、三世代にわたって通院する人も。「とにかく優しい先生」とあつい信頼が寄せられ、他の病院で処方された薬や健康診断の結果を持ち込み、アドバイスを求める人も少なくない。

中学生のとき、住民の健康を守る開業医の実父に憧れ、将来を決めた。大学院時代に尚代さん(67)と結婚。一九八八年に外科医の義父、歯科医の義姉、薬剤師の妻と共同で、十九床の入院病棟を有する医療機関として開院した。現在は内科、循環器科、小児科、リハビリテーション科を診療科目とする無床の診療所に

変更したが、「住民の健康を守る」という信念に変わりはない。

医学生のとき、立正佼成会の庭野日鏡会長から直接かけられた「病だけでなく、心の原因まで治せる医師になったら素晴らしいですね」という言葉を目標にしてきた。「健康が一番ですが、病気を抱えながらも、生き生きとした毎日を過ごしてもらいたい」と話す。そのため、徳島教会の壮年部長として法華経の学びを深めつつ、今も海外の最新の医学資料に目を通して知識の習得に努める。

先日、高血圧を患う妻の診察で訪れた老夫婦に普段の生活について尋ねると、妻は夫の言葉がきつくて怖いと打ち明けた。その途端、夫と口論になったが、須見さんが二人の思いを聞くと、来院時は高かった血圧も下がり、夫婦は笑顔で帰っていった。

「みんな何かしら悩みを抱えています。それを吐き出して心が楽になれば、体にも良い影響が出ます。治療する際は薬だけに頼らず、こうしたふれあいを大切にしています」と須見さん。今日も聴診器を手に、患者の心と体の「声」に耳を傾ける。

*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
11月1日から上記ウェブサイトでもこの記事がご覧になれます。

